



かるがも



<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2016年〈平成28年〉4月



新年度を迎えて

新病院長 星岡 明



このたび平成28年4月1日付けをもちまして伊達裕昭前院長の後任として病院長を務めることになりました。就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

などで皆様にご迷惑をかけております。今後の課題と認識しております。

私は平成14年に当院に赴任して以来、アレルギー・膠原病科の一医師として、こども達の診療に従事してまいりました。その後、伊達前院長のもと医療局長、副病院長を務めておりましたが、このたび当院の運営に携わる重責を担うことになりました。志も新たに約600名の病院職員一同の力を借りて、皆様にご満足いただける医療を提供できるよう、私なりに努める所存です。

さて、平成28年4月から病院の基本理念に「その子らしく、その子のために」というキーワードを加えることといたしました。当院には、さまざまな疾患、さまざまな社会的背景を持ったこども達が紹介されてきます。目の前のこども達のために、自分たちは何ができるか、何をすべきかを第一に考え、多くの職種の職員が協力しあって、その子にとっての最善の医療、安全・安心の医療を提供することを目指します。

千葉県こども病院の歴史を振り返ってみますと、当院は一般医療機関では対応が困難なこどもの病気の診断と治療を行う全県対応型の小児専門総合医療施設として、昭和63年10月に開院しました。

これからも、こども中心の医療、皆様にご満足いただける医療の実現に向けて職員一同努力してまいりますので、これまでと同様にご指導ご支援を賜りますよう職員を代表してお願い申し上げます、就任の挨拶に代えさせていただきます。

開院翌年の病院統計を見てみますと、医師33名、看護師144名、総職員206名であり、延入院患者数は約28,000、延外来患者数は約32,000でした。開院から28年目を迎えた現在、医師は約90名、看護師は約320名、総職員数は約600名となりました。昨年度の延入院患者数は約54,000、延外来患者数は約85,000にまで増えました。このように、人員は増え、提供できる医療の規模も拡大しました。一方で、外来や病棟のスペース不足、設備の老朽化

平成28年4月



診療科紹介
代謝科

部長
村山 圭



代謝科は、主として先天代謝異常症の診療を行っております。先天代謝異常症の専門医師は日本でも非常に少なく（絶滅危惧種に指定）、「代謝科」を標榜している小児病院は全国でもここ千葉県だけです（多くの場合は内分泌代謝科となっている）。尿素サイクル異常症、フェニルケトン尿症などのアミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症、ミトコンドリア病、ムコ多糖症などのライソゾーム病、ウィルソン病、などの先天代謝異常症や、高脂血症、体重増加不良などの栄養障害などに対しても診療を行っています。現在は3人の常勤医師で対応しています。

ミトコンドリア病に関しては、各基幹病院、当院神経科としっかり連携しながら診療・研究を行っています。2016年1月には埼玉医大との共同研究で「日本人の小児ミトコンドリア病・新規遺伝子の発見」についての論文がPLOS Geneticsに掲載され、プレスリリースも行いました（こども病院HPにも掲載）。

登録医の先生方に御願いたいことは、是非とも日常診療の中から先天代謝異常症を見つけて頂きたい、とい



欧州先天代謝異常学会 (SSiEM スイス) の途中にて

うことです。近年、ムコ多糖症、ゴーシェ病、ファブリー病などのライソゾーム病は治療法が多く開発され、治療法が皆無だった時代とは状況が一変しています。それとともに軽症例も見つかっており、治療介入により大幅な予後の改善が期待されています。そうした患者さんは、いきなり私たちのところにくることはありません。顔貌異常（軽度のことも）や軽度～の肝脾腫、四肢末端の疼痛が時々あったり汗をかきにくかったりした場合（ファブリー病）は、代謝科までご紹介ください。勿論、高脂血症、肝機能異常、乳児黄疸などもこれまで通りご紹介下さい。

当科にかかるお子さんの多くは超希少難病であり、時に有効な治療法が無い場合もあります。それでも、個々に抱える問題を1つ1つ解決していくような、細やかな診療をしていきたいと思っております。

診療科紹介
麻酔科

診療部長
内田 整



千葉県こども病院麻酔科は、全身麻酔で行う院内のすべての手術およびカテーテル検査・治療を対象に、年間約2,000例の麻酔管理を担当しています。平成28年度は人員の入れ替わりがありました。7名の麻酔科医（うち4名は麻酔科専門医取得者）で緊急手術にも対応できる体制をとっています。一般の成人の麻酔と異なり、体格が小さく特有の病気を持つことが多い小児では専門性が必要ですが、当麻酔科では小児麻酔の経験が豊かな指導医がすべての麻酔に関与して、安全な管理を行えるよう目を光らせています。

こどもも大人も、痛くない手術を望むことは同じです。当麻酔科では、手術前の問診から術後の鎮痛まで、それぞれのお子さまの年齢や手術方法に合わせたプランを立てて、できるだけストレスを少なく過ごしていただけるよう努力しています。麻酔方法では、穏やかで快適な目覚めが期待できる静脈麻酔薬を中心として使用し、また、術後の痛みに対して末梢神経ブロックや鎮痛薬の持続投与などを積極的にいき、痛みが少ない術後経過を目標としています。



当麻酔科の小児における静脈麻酔薬の使用経験と知識はトップレベルで、この分野については国内の指導的役割を担っています。

私(内田)が麻酔科医になったことと比べると、副作用が少ない新しい麻酔薬が使えるようになり、麻酔中に心臓や呼吸の状況を見守る機器も進歩してきました。現在では、新生児や病気をもったお子様でも安全な麻酔管理が行うことができます。しかし、麻酔に関するリスクを最小限にするためには、普段お子様と接しているお父さま、お母さまからの情報がとても重要です。手術の前には担当の麻酔科医がお部屋を訪問して診察を行うとともに、お父さま、お母さまから日常の様子やアレルギーの有無、既往歴などの情報収集を行いますので、ご協力をお願いいたします。

研修会・公開講座のお知らせ

●平成28年度 第1回児童虐待防止研修会

日 時：平成28年6月11日（土）

14:00～16:30

会 場：ホテルポートプラザちば

テーマ：「児童虐待防止における厚生労働省の施策と
現場の取り組み及び画像診断の詳細」

●第6回千葉県小児臨床症例研究会

日 時：平成28年6月22日（水）

19:30～21:00

会 場：千葉県こども病院第一会議室

《ご紹介いただいた患者さまの症例報告》

腎臓科：「3歳検尿で検尿異常を指摘され、当院で腎生検をした症例」

血液・腫瘍科：「多彩な症状を認め骨髄腫瘍性疾患との鑑別を要した
稀な栄養障害の1男児例」

《小児診療における各科のポイント》

泌尿器科：「夜尿症診療～かかりつけ医の重要性～」

●訪問看護ステーション公開講座

日 時：平成28年7月12日（火）

17:45～19:30

会 場：千葉県こども病院第一会議室

テーマ：「小児の在宅医療を支える～事例報告を通して～」

●平成28年度第1回県民公開講座

日 時：平成28年9月4日（日）

14:00～16:00

会 場：千葉市ビジネス支援センター会議室 きぼーる13階

テーマ：「子どものころを見つめて

～小児科医が語る発達に障害を持つ子どもの子育て～」

講 師：桜木園 園長 柿沼宏明（医学博士）



〈千葉県こども病院 登録医のご紹介〉

外房こどもクリニック

〒299-4503千葉県いすみ市岬町和泉1880-4
TEL 0470-80-2622 FAX 0470-80-2633

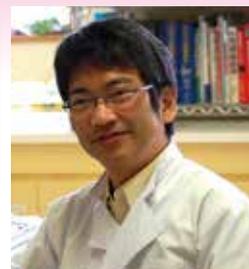
外房こどもクリニックの黒木春郎です。当院は、九十九里の南、房総半島が東にせり出している所にあります。こども病院からは50km離れています。南へ更に40km行くと亀田総合病院があります。私は東京出身ですが、地域医療を志して11年前にいすみ市で開業しました。

小児医療の過疎地での私たちの使命は、プライマリケアの質を高く保つことだと思っています。常勤医師3名、非常勤医師4名、臨床心理士2名の態勢(平成28年4月現在)で、臨床研究や各自の課題に基づいた勉強に励んでいます。

また、医療的社会的資源の少ない土地で、私たちから積極的に地域連携を持ちかけていく必要を感じています。具体的には、特別支援学校における医療的ケアの支援、障害児のデイケアへの協力、乳児院の医療支援、保育所・小学校・中学校と健診等を通して密接に関わり情報を交換していくこと、等です。また、昨秋より、周辺自治体の要請を受けて病児保育室も始めました。

診療時間 午前9時～12時
午後3時～5時
乳幼児健診・予防接種
午後2時～3時

休診日 日曜・祝祭日



黒木院長

更には、ここ数年、発達に支援が必要なお子さんを早期に発見して療育につなげること、また更にそれらのお子さんの小中学校生活を支えていくことが、地域から要請されるようになりました。さまざまな職種の方による支援ネットワークをぜひ構築したいと思っています。

千葉県こども病院にはいつも大変お世話になっております。また、こども病院は私自身が25年ほど前に勤務した懐かしい故郷でもあります。これからもよろしくお願ひ致します。



地域の保育士等を対象にエビベン講習会



チームワークで働いています

さとう小児科医院

〒266-0031千葉県千葉市緑区おゆみ野3-22-6
かまとりクリニックビル4階
TEL 043-226-9522 FAX 043-226-9523

さとう小児科医院の佐藤です。鎌取駅から歩いて3分ほどにあり、千葉県こども病院にも近い小児科・アレルギー科の診療所です。今年で開院して20年になります。以前勤めていた国立病院機構下志津病院では重症の難治性の気管支喘息の子どもたちの施設療法を行っていました。そこに来る前に早期介入することで重症難治化することを防げないものか、もっと子どもたちに寄り添って、成長を見守っていける医療がやりたいと思い、開業しました。気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーを中心に、急性疾患など小児のプライマリ・ケアの実践に努めています。病児保育室「バンビーノ」を併設し、子育てで支援に力を入れています。また最近では、臨床心理士の力を借りて、発達障害のある子どもたち、心の問題を持つ子どもたち、子育てしにくい子どもたちの相談にもなっています。乳幼児健診、予防接種を始め、現在近隣の3つの小学校の校医、5つの保育所・園の嘱託医も務め、小児保健活動も開業小児科の重要な仕事として力を注いできました。

診療時間 午前9時～12時
午後3時～6時
乳幼児健診・予防接種
午後2時～3時

休診日 水曜日・土曜日午後・日曜・祝祭日



クリニック受付

千葉大学医学部の学生実習、さらには卒後初期研修、千葉中央看護専門学校の小児看護実習などに協力し、地域小児医療の実際をみて、感じて、楽しんでもらっています。総合医としての小児科医でありたいと日々研鑽に努め、小児科医会活動にも参加しています。千葉県こども病院の先生方には、いつも患者様をお引き受けいただき、相談にも乗っていただき大変感謝しております。今度とどうぞよろしくお願いいたします。



クリニックスタッフ一同



佐藤院長(中央)と病児保育室スタッフ

千葉県こども病院 新体制

病院長	星岡 明
副病院長 こども・家族支援センター長	青墳 裕之
医療局長 医療安全管理室長	伊藤 千秋

星岡 明
青墳 裕之
伊藤 千秋



千葉県こども病院
こども・家族支援センター長
青墳 裕之

こども・家族支援センター長就任にあたって

みなさまにおかれましては、今年も美しい桜の満開とともに、希望に満ちて心おどる四月を迎えられたことと思います。このたび、こども・家族支援センター長を拝命いたしました。最大限努力して参りますので、よろしく御願い申し上げます。

さまざまな疾患を抱えた患者さんおよびそのご家族にとって、それぞれの皆様に最も適した医療をうけていただき、さらにそれを退院後も継続してゆくためには、社会的な支援がとても重要です。千葉県こども病院も医療機関として地域の医療機関のみなさまとの連携のもと、可能な範囲の最大限のご支援をできればと考えており、当センターは当院でもとくに力を注いでいる部門です。

センターには地域医療連携部門、入院療養および在宅医療を含めて生活支援部門、ボランティア窓口部門のほか、院外活動として千葉県児童虐待防止医療ネットワーク事業の中心的役割なども果たしており、そのほか登録医のみなさまとの学術的活動、広く県民のみなさまへの広報的活動も含めて幅広く活動しております。

今年度からは看護職員も3名増員し、入院患者さんについては入院前より入院中、そして退院、退院後を見据えたそれぞれの患者さんに適した医療の提供システムの構築への取り組みも開始します。今後も広くみなさまのお力をお借りすることになるかと思いますが、皆様よろしくご指導、ご支援のほど御願い申し上げます。



千葉県こども病院
医療安全管理室長
伊藤 千秋

医療安全管理室長就任にあたって

この度、平成28年4月1日付けで青墳前医療安全管理室長の後任として医療安全管理室長に任命されました。今年度は中島弘道診療部長(室長補佐)、清水博和副看護局長、宮下絹代感染管理認定看護師、浅子恵利薬剂部長、淀野伝一郎管理課長を加えた計6名で対応することとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。

医療安全管理室は医療安全管理に関する院内各部門の活動を総括する病院長直属の組織です。ここで担当する業務は多岐にわたりますが、主たる業務は医療事故に関する報告を収集し、事故の背景に分析を加え適切な対策を立案することにあります。さらにその実効性を評価し、同じ事故が二度と起こらないよう再発予防に努めることが最大の任務です。

残念ながら皆様方ご承知のとおり医療事故についての報道が絶えません。医療安全に関する研修を通して、また関連する書物から得た知識、情報を整理してみると、こうした事故の多くが「ちょっと注意すれば防げたのに」とか「なんでそんな風に思いこんだのだろう」ということに行き着きます。事故を起こしてしまった当人が一番そう感じていると思います。これらはヒューマンエラーといわれるものです。ヒューマンエラーを防ぐためにはシステムを改良することも重要です。またチーム医療の中、誰かがリーダーシップをとると同時に気がついたことをチームの全員が言い合える環境作りも重要です。こうしてはじめて事故を未然に防ぐルールが敷かれると考えています。

事故のない安全な医療は、私たちの目指す質の高い医療の根源をなすものです。当院のスタッフ誰もが安全な医療を常に意識しつつ患者様に適切な治療、看護が提供できるよう、安全管理室一同とともに微力を尽くしていきます。

新部門責任者・新総括医長



腎臓科 部長 久野 正貴

平成20年より、東京女子医科大学から千葉県こども病院に赴任させていただいております。当科では、ネフローゼ症候群、IgA腎症、学校検尿異常のほか、小児腹膜透析、緊急血液透析などにも対処してまいります。少しでも千葉県の子どもの力になれば幸いです。腎に関してお困りの場合は御相談ください。今後ともよろしくお願いいたします。



脳神経外科 部長 沼田 理

脳神経外科の沼田理です。こども病院には平成16年から常勤医として勤務しております。当科では二分脊椎や水頭症、脳腫瘍などを中心に幅広く小児脳神経外科疾患に対応しています。遠方から来られる患者様も多く、全ての患者様、御家族に安心して高度かつ安全な医療を提供できるよう努めてまいります。



形成外科 部長
鈴木 啓之

わたくしは、昨年度末に退職された宇田川部長が千葉大学形成外科へ出向した平成12年に後任として昭和大学病院から赴任し、足かけ17年になります。千葉県こども病院の形成外科では口唇口蓋裂、手足の先天異常、漏斗胸の内視鏡手術、臍突出などの体幹部の変形、皮膚良性腫瘍、母斑、頭蓋骨、顔面骨の骨切り手術など多くの手術を行っており、そのバリエーションの多さは他の小児病院と比べても、群を抜いたところがあります。今年度は鈴木、石垣医長、江川医員の3人体制で診療を行って参ります。



眼科 部長 高相 道彦

本年3月に前部長・磯辺の退職に伴い、4月より眼科部長の任に当たることとなりました。ちょうどこども病院在籍も10年となり、改めて気を引き締めて参る所存です。尚、眼科常勤医師は2名の体制となり、患者の皆様には何かとご不便をおかけすることがあるかと思われませんが、何卒ご容赦いただきますようお願い申し上げます。



小児外科
総括医長 光永 哲也

こども病院赴任は2000年と2006年に続いて3回目となります。千葉県の小児医療の中心でまた働けることを大変うれしく思っています。分かりやすい説明と安心できる医療技術の提供を心がけています。よろしくお願いいたします。

退任にあたって

前病院長 伊達 裕昭



暖かだった今冬の影響で、桜の開花も例年より早いようです。

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」の詩句のように、今年も4月を迎えて多くの職員が異動する中で、平成28年3月末日をもちまして千葉県こども病院を定年退職いたしました。病院長の職を辞するにあたり、ひとこと皆様にご挨拶申し上げます。

平成16年4月に病院長を拝命して以来、駐車場の拡張整備、周産期センターの設立、売店食堂の整備、電子カルテの導入と更新など、時代の流れに沿うため病院機能の拡張と充実を図ってまいりました。来院される皆様には工事や診療の一部停止で大変なご迷惑をおかけすることも多かったと思います。現在の病院の姿に進化するために、どれも皆様のご理解とご協力が得られなければ実現できなかったことと、ここに改めて御礼申し上げます。

その一方で、昭和63年の病院開設時の想定をはるかに超える来院患者数に十分な対応が難しくなったり、この期間が「喪われた20年」とも言われるバブル崩壊後の経済の低迷期とも重なって、老朽化する建物や設備の改修に思うような手を加えられなかったことは、これからの病院の課題として残っています。

これら諸点への取り組みは星岡新病院長ら後進に託しますが、皆様からこれまで戴いたご理解

とご協力を新体制にも同様に頂戴できますよう、お願い申し上げます。

日々、病院には多くのお叱りの声や改善のご指摘を戴きます。それらの声はこども病院に向けられた期待であり、希望の声でもあると受け止め、職員一同は改善に努めています。その原動力になっているのは、何よりも子どもたちの笑顔であり、皆様から寄せられる信頼です。これまでも多くの励ましと感謝のお言葉をいただき、職員一同は本当に力づけられてきました。必ずしも皆様に満足のいく歩みばかりでは無いかも知れませんが、これからも末永く温かくこども病院を応援して頂ければ幸いです。

長きにわたるご支援に感謝しここに退任いたします。本当に有り難うございました。

平成28年4月

